

<b>《大里こども園 公開保育&amp;合同研修会》 大里地区</b>	
実施日時	令和6年11月22日(金) 公開保育 9:00~10:00 合同研修会 10:10~12:00
実施場所	公開保育園：大里こども園 合同研修会：大里こども園遊戯室
参加者	保育参観：39名 (保育関係者19名 小学校1名 他市町村6名 行政13名) 合同研修会：33名 (保育関係者19名 小学校1名 他市町村6名 行政7名)

**1 公開保育《3歳児~5歳児 全クラス公開》**

〇あいにくの雨模様のため、大きな園庭で伸び伸び遊ぶ姿を見ることはできなかったが、《自立：じっくり取り組む》《協働：力を合わせて取り組む》《創造：新しいものを創り出す》との教育目標の基、園児たちは広々とした園舎でそれぞれの遊びを楽しんでいる。



3歳児

折り紙でカレーやケーキを作ったり自然物を使ってうさぎになりきったり、自分なりにイメージしたことを伝え合っている。またお客さんを巻き込み、ごっこ遊びで会話のやりとりを楽しんでいる。



4歳児

スポーツフェスティバル後に家族でレストランに行った経験から廃品を利用して友だちと綺麗にしたり、「かじまやー」の劇を見た経験からペープサートを作ってお客さんに見せたりして、園や家庭で経験したことが遊びにつながっている。



5歳児

身近な廃品を使って遊びに必要なものを作りお店屋さんになりきって遊んだり、テーブルゲームでは自分たちでルールを考えて遊んだりする中で、友だちと遊ぶ楽しさを味わい伸び伸びと自己発揮をしている。

参加者アンケートより

**《環境構成》**

- ・園児が好きな遊びをいつでも出来る様に折紙・ハサミ・廃材等すぐに手に取れる位置に置いてあった
- ・子どもたちが遊び込める・考えて試せる・体験出来る等沢山の環境が用意されているところに感動
- ・作品の飾り方も、すぐに手に取れる所や天井・廊下等色々な場所に飾れるのも良いと思った

**《保育者の援助》**

- ・園児同士のトラブルで、泣いている園児に寄り添い、一人ひとりに声かけをして話をきいていた
- ・子どもがお店屋さんごっこをしていて、側で見守りながらもその場に合った助言をしていた
- ・園児の思いをくみ取って、必要に応じて子どもの言葉を補い、子どもの工夫を気づかせる声かけをしていた

**2 指導助言及び講話 琉球大学教育学部講師：宮城利佳子氏**

- ・子どもが自分で見付けたと思えるような環境構成作り、これが保育者の役目
- ・子どもの「やりたい」を実現する。廃材をいつでもいくらでもの環境を！
- ・他学級との交流が気軽に出来る環境を子どもと共に作ると更に遊びが広がる

【講話より】「架け橋期の教育・保育 ～子どもと共に考える～」

- ・スタートカリキュラムは、幼児期の遊びや生活を通した学びや育ちを基礎として作成する
- ・幼小交流《日常的な交流・園が小学校の環境を利用する・小学校が園の環境を利用する》



**3 成果**

- ・公開保育後担任からの保育振り返りで更に子ども理解が深まり、グループ協議で沢山の気づきや発見を共有、講話で実践と理論を結び付けながら保育を振り返ることが出来た。

